

# アピール

## すべての子どもたちの最善の利益が保障される社会の実現を！

わたしたちは、全国からのべ9,000人がここ広島の地に集い、第69次教育研究全国集会を開催しました。

集会のオープニングでは、「被爆ピアノに想いをよせて」として、1945年8月6日に広島で被爆したピアノによる公演がありました。全体集会では、ゆたかな学びを保障するために、点数目標達成にむけて子どもを追い立てるのではなく、子どもの視点に立ち、学びのあり方を問い直し、創造的な教育活動を推進していくことの重要性が共有されました。記念講演では、多様性を認め合いながら生きることや平和・人権などについて考える機会となりました。教職員は、「子どもたちの人生に大きな影響を与えている」「子どもが安心して頼ることができる存在になってほしい」というメッセージが印象的でした。

分科会では、新学習指導要領において、教育内容の質と量が同時に求められている中、画一的な枠組みに縛られるのではなく、子どもや地域の実態をふまえ、ゆたかな学びを追求し創意工夫された教育実践が報告されました。討議を深める中で、なかまから多くのことを学ぶ機会となりました。

特別分科会では、教職員の働き方改革に関するシンポジウムを行いました。教員志望の大学生、地元広島の保護者・教職員、識者それぞれの立場から意見が出されました。子どもにも教職員にもゆとりが大事だということ、様々な立場の者が関わることが重要であることなど、子どもも教職員も安心できる学校づくりのために、学校の働き方改革を学校・地域・保護者が連携してすすめていこうと確認されました。

今次教研では、地域や子どもたちの姿から課題を見つめ、すべての子どもたちの最善の利益を保障するための教育実践について討議・交流することができました。これからも全国のなかまとともに、平和・人権・環境・共生を柱に、憲法・子どもの権利条約の具現化と民主教育の確立にむけ、教育実践をさらに積み上げていきましょう。

2020年1月26日

日教組第69次教育研究全国集会